

はじめに

近年、まちなかの道路について、空間再配分や施設更新等を通じた空間再編の動きが、国内外で活発化している。自動車優先から歩行者・自転車・公共交通優先へ、モビリティのヒエラルキーを転換させるとともに、道路空間が持つ公共空間としての多様な機能を発現させることで、生活の質的向上やエリア価値の向上等、地域を再生しようという試みが世界各地で取り組まれてきた。

ブキャナンレポートが加速する自動車社会に対する警鐘を鳴らしたのが1963年である。その後、1970・80年代には歩行者モールの整備をはじめ、まちなかにおける歩行者空間の改善に向けた様々な取り組みが世界各地で行われた。その後、ひとたび沈静化を見せたこのような動きが、21世紀を迎えた現在、再び高まりつつある。その背後には、交通に係る各種技術の飛躍的な進歩に加え、社会の成熟とともに、道路をはじめとする公共空間における都市的体験の重要性が見直されてきたことが指摘される。

わが国でも、少子高齢・人口減少社会の本格的な到来に伴うコンパクト&ネットワーク型の都市構造の構築、衰退する中心商店街や観光地の活性化、地方自治体の厳しい財政状況下における民間活力の導入、希薄化する地域交流の活発化とソーシャルキャピタルの醸成等、都市を取り巻く社会状況が変化する中、まちなかの道路空間に求められる機能・役割が変化しつつある。

そこで、国土技術政策総合研究所・緑化生態研究室では、平成26年より道路空間再編に関する調査・研究に取り組んでいる。道路空間再編の取り組みについては、市区町村をはじめ地方自治体による実践の中で様々なアイデア・ノウハウが生まれていることから、先行事例で得られた知見の体系的な整理と共有に努めている。この内、本デザインガイドは、特に空間デザインに係る技術的留意事項をとりまとめたものである。

一つ一つの地域は固有であるとともに、一つ一つの道路もまた固有である。従って、道路空間のデザインに絶対解は存在せず、常に固有の条件の下で解を導き出すことが求められる。本デザインガイドはそのための基本的な考え方と具体的なヒントを散りばめた参考書である。道路空間再編に取り組む行政担当者の皆様には、本デザインガイドを積極的に活用し、道路空間再編を実践して頂くことを期待したい。

本デザインガイドの特徴として、道路空間再編におけるデザインを機能・空間形態別の13の「デザインパターン」に類型化し、デザインパターン毎に計画・設計上の留意事項を整理している。各デザインパターンの特徴を十分に理解した上で、当該路線・エリアの現況、及び目標とする道路空間のイメージと照らし合わせながら、最適なデザインパターンを採用し、全体の計画から細部の設計に至るデザインを検討されたい。

なお、本デザインガイドをとりまとめるにあたり、次頁に示す有識者の方々からなる研究会を立ち上げ、専門的見地からご意見を頂くとともに、道路空間再編に取り組む地方公共団体等の関係者の皆様から、沢山の貴重な資料や情報をご提供頂いた。この場を借りて深く御礼申し上げたい。

平成30年3月

国土交通省 国土技術政策総合研究所
社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室

平成29年度 道路空間再編・利用研究会

小野寺 康 (有)小野寺康都市設計事務所 取締役代表
崎谷 浩一郎 (有)E A U 代表取締役
羽藤 英二 東京大学大学院 工学系研究科 教授
平野 勝也 東北大学 災害科学国際研究所 准教授
福井 恒明 法政大学 デザイン工学部 教授
福島 秀哉 東京大学大学院 工学系研究科 助教
三浦 詩乃 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 助教

敬称略、五十音順、所属等は当時